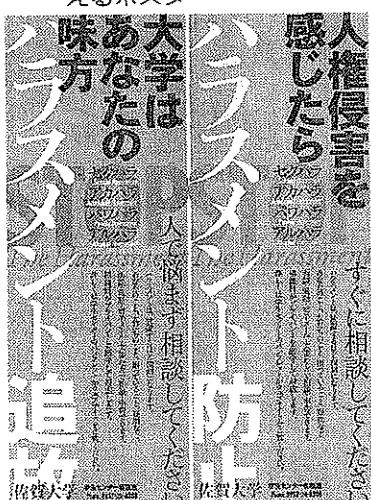


ハラスメント防止を訴えるポスター



新学期が始まり、キャンパスはさわやかになった。佐賀大学には、学生を含めて約四千人の女性たちが学事に従事している。七月から学内の女性たちとの懇談会を始めた。初回は本部棟で働く女性で、「小さな子どもを抱えながら職員が集まり、改修予定のトイレについて話し合つた。初めてなので意見が出た。初めてなのではと心配したが杞憂になってしまった。妊娠中の経験から「個室内に手すりを」「更衣室でちょっと横に人種侵害を感じたら」という想いを超えた。校生の母親や「これから子どもを」という人たちも集まっている。この意見を出し始めた。妊娠中のままた。育児休業のない時代に子育てをした女性から「洗いは自動水洗より、ペダルを踏んで水を出す方が出水量の調節ができる環境にやさしい」というもの。

佐賀大学には、学生を含めて約四千人の女性たちが学事に従事している。七月から学内の女性たちとの懇談会を始めた。初回は本部棟で働く女性で、「小さな子どもを抱えながら職員が集まり、改修予定のトイレについて話し合つた。初めてなので意見が出た。初めてなのではと心配したが杞憂になってしまった。妊娠中の経験から「個室内に手すりを」「更衣室でちょっと横に人種侵害を感じたら」という想いを超えた。校生の母親や「これから子どもを」という人たちも集まっている。この意見を出し始めた。妊娠中のままた。育児休業のない時代に子育てをした女性から「洗いは自動水洗より、ペダルを踏んで水を出す方が出水量の調節ができる環境にやさしい」というもの。

佐大アスケンチ

女性懇談会

仕事以外でも意見交換

困った」という指摘もあった。学童保育が充実しない時は、放課後の居場所確保など、時代によって苦労が違った。子どもの突然の病気には備えて実家近くに住む人、子育てと仕事の両立を考え、非常勤を選んだ人。共通するのはどの時代も「子育ての中心は母親」だった。

懇談会を始めて三ヶ月。

一番の成果は、女性たちが「仕事以外のことについて意見を出す機会ができた」ことを喜んでいることではないか。現在、佐賀大学の意見決定の場に参画している女性は圧倒的に少ない。年代を超えて、職種や性別にかかわらず参画する機会があることは、その組織の多様性と柔軟性を現す。最近、学内の男女共同参画を推進する環境整備も始まった。

(佐賀大学理事・北島悦子)
※次回は「十七日の予定